

第5回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

1. 日 時 令和5年10月4日（水）14:00～16:00
2. 場 所 印西市文化ホール 大会議室
3. 出席委員 ◎高橋克委員、○榎美香委員、西山純子委員、早川博史委員
伊藤哲之委員、西田裕子委員、本田正幸委員
（◎委員長、○副委員長）
4. 欠席委員 三石委員、岸上委員
5. 事務局 印西市教育委員会生涯学習課 飯島課長、菅谷係長、根本主任学芸員、大関学芸員
6. 傍聴人 1名
7. 会議内容
 - 1 開会
 - 2 会議録署名委員の指名
 - 3 議事
 - （1）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画 修正箇所の確認
 - （2）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画 施設整備計画（案）の検討
 - 4 その他
 - 5 閉会

8. 会議録

1 開会

2 会議録署名委員の指名

委員長 : 伊藤委員を指名する。

3 議事

（1）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画 修正箇所の確認

事務局 : ※資料1について説明

委員 : P.15「里山のくらし体験」のイラストが水辺の踏車に変更されたが、整備地が水辺に近いということか。変更した意図はなにか？

事務局 : 整備地を想定しているわけではなく、印西市の実情を踏まえたイラストとした。

委員 : フィールドミュージアムとして、施設外での体験提供も想定できると思う。

委員 : p.15「子どもの遊び場」のイラストも変更できないか。屋外でナウマンゾウのモニュメントを描くなど、歴史文化の要素を入れてはどうか。

委員 : 高齢者と子どもと一緒に土偶を作るとか、子育て中の方が集うようなシーンを描いてはどうか。

事務局 : 前回の委員会では浦安市郷土博物館のような昭和の街並み再現などの意見もあった。子どもたちが昔の遊びを体験できるなど、そういった点も加味して検討したい。

（2）（仮称）印西市歴史文化施設基本計画 施設整備計画（案）の検討

事務局 : ※資料2について説明

- 委員 : P.28～29「①諸室の機能・規模」について。歴史的公文書の収蔵を想定しているとのことで、かなり大きな施設となることが想定される。その場合、そのような規模が整備可能な立地があるのだろうか。印旛高校跡地は災害リスクは低いアクセスがネックになる。土地の確保について事務局の考えを聞きたい。
- 事務局 : 現在4つに分散している施設を一つに集約するとともに、新たな機能を付加するため6,000㎡以上の規模となっている。展示や収蔵については、今後詳細を検討いただきたいと考えている。立地についてはP.27に整理した。具体的な敷地については今後ご議論いただきたい。ご指摘の通り、これだけの規模が整備可能な候補地はいくつかあり、土地の購入や借用なども考えられるが、まずは公共用地で検討したい。市議会では民間所有の未利用の土地の活用についてご意見をいただいているところではある。
- 委員 : 立地条件に、これから整備される公共施設との併設についても検討してほしい。図書館や公民館など、多くの市民が集まる施設と集約すると、幅広い層の利用につながると思う。
- 事務局 : 千葉ニュータウン中央駅近くに整備されるホールには、子育て施設や福祉関係の施設が入る。市では公共施設適正配置を進めており、施設の複合化を検討している。他施設との複合化についても検討したい。
- 委員 : p.27の基本方針に「屋外空間も活用し」とある。木下地区には天然記念物の貝層があり、その保存活用という視点から、公園の一部、歴史資料センター前の広場を計画変更して増設するとよい。立地の考え方に「文化財の保存活用に寄与する場」というのを追加してはどうか。千葉ニュータウン中央駅前だと土地所有の費用がかさむため、木下交流の杜に整備してはどうか。
- 事務局 : 木下交流の杜広場には、集約化の対象である歴史資料センターがあり、近隣には木下貝層という文化財もあるので、候補地の一つとして検討している。
- 委員 : 1箇所ではなく木下駅前には木下街道が通っていたので、そういった場所とつないだ形で整備することも検討してほしい。デキシー跡地に街道を復元するなど、多面的に検討するとよい。歴史の掘り起こしにもなるし、木下地区の活性化にもつながる。
- 事務局 : 木下駅南口広場のデキシー跡地は市が買い取り、今年の2月から広場として整備・解放している。ただいまのご意見や、先ほどのフィールドミュージアムというご意見も踏まえて、検討していきたい。
- 委員 : 近年、印西に大企業が進出しているのは地盤が強固だからと聞いている。具体的にはどのあたりになるのか。
- 事務局 : 将来的には21棟のデータセンターが整備される予定である。その全てが千葉ニュータウン地域の北総台地の強固な地盤の上に整備される。東京電力が幹線道路沿いに電力供給網を整備しており、それにそって整備が進んでいる。
- 委員 : 河岸の復元を考えるとニュータウンではそぐわないのかもしれない。
- 委員 : 市の保有する土地としては、立地条件の3点に適合する場所はどれほどあるのか。デキシー跡地は災害リスクについてどのように評価しているのか。
- 事務局 : デキシー跡地は災害危険地域とされている、候補地については複数案で検討している。
- 委員 : 国立科学博物館がコロナ禍の影響で収入が減ったため、光熱費をクラウドファンでまかなったという話を聞き、博物館は電気が必要となることを思い知らされた。近いうちに、牧の原駅前に変電所やデータセンターができると聞く。とすると牧の原地区は停電しにくい場所になると考えられる。変電所からの距離と停電の可能性は関係性があるのか確認してはどうか。博物館にとって停電を避けるための非常用予備電源をどの程度整備するものなのか。市としては停電時にどの程度持たせようと想定しているか。
- 事務局 : 牧の原地区は停電しにくい地区という印象がある。自家発電については、公民館では2日間程度もつ施設もある。

- 委員 : 民俗や歴史資料が中心なので、緊急に復旧しなくてはならないというものではない。収蔵庫については、急激な温湿度変化がなければ問題なく、停電になっても1週間程度は大丈夫である。
- 委員 : 当館は古い施設であるが、数時間持つ自家発電がある。ただし、消火施設のための共有源として整備されている。
- 委員 : 美術館の場合は、基本的には災害時に収蔵庫を開けず、庫内の急激な温湿度変化を防ぐ対応をしている。電力でいうとランニングコストのほうが気がかりである。当館でも光熱費が4,000万円ほど上がってしまい、施設機能を封鎖しなくてはならない状況になっている。
- 事務局 : 博物館登録をする際には登録要件というのがあるのだろうか。
- 委員 : 消火設備についてはあるが、自家発電の有無については博物館法に規定はないと思う。
- 事務局 : 博物館法の登録博物館の規定にはないが、重要文化財等を公開する施設として文化庁の許可が必要となったときに、消防設備や搬入経路、資料の動線といった点に関しては細かく検討していただくことになる。その際に消火設備も含めて課題になるところが出てくると考えられる。
- 委員 : 重要文化財を公開できる施設を目指してほしい。
- 委員 : 重要文化財を借用できる施設機能を備えておくことはとても重要である。
- 事務局 : 歴史資料のほか美術品も、企画展等で展示したいと考えている。
- 委員 : 地域ゆかりの作家の作品など、博物館で美術品を展示することは特に問題ない。印西市でいうと香取秀真などの作品がよいのではないか。
- 事務局 : 来年度、香取秀真展の開催を予定している。
- 委員 : p.26に「活動が見える施設」とあるが、松戸市立博物館ではリニューアル過程を頻繁にHP上で発信していた。そういうのを市民の方が見ることができれば博物館へ親近感を持ち、サポーターになってもらえると思う。そのためにも、早めに学芸員は配置し、印西市でも展開するとよい。
- 事務局 : 今すぐというわけではいがないが、実現に向けて検討していきたい。また、「活動が見える施設」とは、たとえば収蔵庫内が見られるように配慮するなど、施設整備面を意味している。
- 委員 : 恐竜博物館など、化石をクリーニングしている様子が見える館もある。長崎県美術館では修復師の活動を見ることができる。
- 委員 : 駐車場の確保についても整備方針として盛り込んではいかがでしょうか。
- 事務局 : 検討したい。
- 委員 : p.26「自家用車等での来館がしやすいよう」とあるが、どういう意図の文言か。
- 委員 : ニュータウン地域の方々の足は、自家用車が多いのか。
- 事務局 : 都心に通勤しているとか、敷地内に駐車スペースが1台分しかないということもあり、他の地域よりは公共交通の利用が多いイメージである。
- 委員 : これだけ広大な施設規模のなかで書庫の規模が小さいように思う。交換文献などが増えていくので、もう少し広くとったほうがよい。
また、ワークショップルームには、かなり多くの機能が期待されているが、工作を行う場と講座スペースが一緒というのは、開催時の準備の面で心配がある。また、施設規模に対して40名という想定規模は少ないのではないか。これだけの規模の施設であれば携わる人も多くなるので、多目的室や控え室といった機能も広めにとっておいたほうがよい。
- 事務局 : ワorkshopルームについては、ご指摘をふまえて検討する。

- 委員 : 館内に図書室を設けるのが理想的ではある。
- 委員 : 市内に複数ある図書館の郷土資料コーナーを集約する想定なのか。図書館との関係を教えてほしい。
- 委員 : 博物館にある図書室は、博物館の専門性にあつたものが基本になる。たまたま、新施設は歴史や民俗を扱うことになるので、図書館の郷土コーナーの資料と重なることになる。そういうことがあっても特に問題はない。
- 事務局 : 基本的には一般の方が図書を閲覧する図書室的機能が「ライブラリー」になる。交流のための機能が多く入っているエントランスホールの中に、本が置いてあり、そこで自由に読めるようなイメージで考えている。非常にパブリックなところで本を見ることになるので、静かな環境で本を読みたいという方のための配慮は必要になると考えている。書庫に関しては、面積的な問題があるので、専門的な書籍がどのくらい増えるのか、もう一度想定をして、十分なスペースを確保できるように検討する。内容の詳細を詰めていきたい。
- 委員 : 企画展示室が 100 m²とあるが、博物館では標準的なサイズなのか。小さい気がするが。
- 委員 : 当館では 700~800 m²の企画展が 2 フロアある。私も一見して小さいのではないかと思ったが、博物館の場合は常設展をいかにおもしろくつくるかというのがメインになるので、あえてこの点は言及しないでした。100 m²は、大規模な企画展を開催するにはたしかに小さい。
- 委員 : 常設展示室 500 m²は大きいのか。展示替えは行われるものなのか。
- 委員 : 規模については展示物の大きさにもよると思う。常設展示の展示替えは、館の方針にもよる。毎年一部ずつ展示替えして、数年後には全体が変わっているという形で行われる館もある。
- 委員 : いつも同じ展示ではリピートにつながらない。また、来館者の滞在時間にはある程度制限があるため、その点を考慮して展示の規模を検討してはどうか。
- 委員 : 企画展示室は大きいにこしたことはない。内容にあわせてフレキシブルに使えばよい。
- 委員 : 常設展示室の一部も企画展の規模にあわせてフレキシブルに活用できるとよい。また、展示室に入ったときに全てが見渡せてしまう規模ではつまらなくなってしまうので、そのあたりも踏まえて検討してほしい。
- 委員 : 更衣室にシャワー室を設けるのはどうか。
- 委員 : 外の水場があるとよい。
- 委員 : 印西市は市域がとても広いので、広い印西市をイメージしてもらうためにジオラマや映像音響設備を設けてほしい。東武ワールドスクエアのように、精巧なジオラマがあると本物を見たくなる。広い印西市を見て回りたい気持ちになる展示を検討してほしい。
資料にはカタカナの文字が多い。施設ができたときにカタカナ文字が多いと不親切な印象を受けるので、検討いただきたい。
- 事務局 : 技術の進歩を活かしながら資料の公開を検討していきたい。
- 委員 : 市原歴史博物館のエントランスでは、各地区に何があるのかが説明された、ジオラマを簡略化したような展示がされている。
- 委員 : 航空科学博物館では飛行機の展示があり、子どもたちが楽しみながら見ている。
- 委員 : 少しゲーム的な要素があるとよい。
- 委員 : ミュージアムショップではオリジナルグッズを展開できるとよい。木下貝層にちなみ、いろいろな貝のレプリカをガチャにするなど。印西市ならではの要素を活かしたオリジナル商品が展開できるとよい。マスコットキャラクター

一の作成など、PR のことも検討してほしい。

- 委員 : これまで文化財を守り伝えてきてくれた神社仏閣の後継者が不足し、借用資料の引き取り先がない。今後は博物館がそうした受け皿としての機能となることも想定しておく必要がある。施設規模に対して収蔵部門が大きく想定されているが、後継者のいない資料の受け皿としての機能も検討してほしい。
- 事務局 : 新施設ができることで市民からの寄託もふえると思うので検討していきたい。

4 閉会

その他

- 事務局 : 次回は 10 月 26 日（木）14:00～文化ホール大会議室で開催する。

【会議資料】

- ・資料 1 （仮称）印西市歴史文化施設基本計画（案）
- ・参考資料 第 4 回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会 会議録

令和 5 年度第 5 回（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会会議録は事実と相違ないことを承認する。

令和 5 年 10 月 19 日

（仮称）印西市歴史文化施設基本計画策定委員会

会議録署名委員 伊藤 哲之
